

社会医療法人松平病院 広報誌 アンダンテ

No. 49
2017.5

- 特集「松平病院の歩みと未来へのメッセージ」 … P2・P3
- デイケアだより … P4・P5
- 展示販売会・春の遠足 … P7
- 働くことについて考えてみませんか… P6
- 茶居花市・新店舗のお知らせ … P8



ドッグガーデン茶居花に新しい仲間がやってきました。名前はいちめちゃんです。よろしくおねがいします。

特集 松平病院の歩みと 未来へのメッセージ



当院は一昨年創立50周年を迎え、新病院での診療も無事2年が経とうとしています。これも長年に渡る地域の皆様のご支援の賜物であると、厚く感謝申し上げます。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻をいただきますようよろしくお願いいたします。

平成29年4月1日、看護部長として高橋が就任しました。今回は、長年看護部長を兼務してきた前田事務長より松平病院の歩みと未来へのメッセージをお伝えします。

社会復帰という可能性

私が医療の世界に携わって45年という月日が経とうとしています。松平病院に勤務して30数年、やっと看護部長という重荷をおろすことが出来ました。今まで様々な患者さんと出会いました。私が松平病院に勤務した当時は定型薬といわれている薬を服用している患者さんが多く、体のこわばりや手の震え、悪性症候群など副作用が病状にみえることが多くありました。そういった副作用を負担に感じ退院すると薬を飲むのをやめてしまい、ごく短期間で再入院する方が多くいました。患者さんに話を聞くと薬のこともあるけど家庭に戻って仕事もせずタバコばかり吸っていると家族との折り合いも悪くなり、結果的に調子を崩してしまうのだそうです。その様な患者さんが社会復帰するまでを傍で見守り考え続けた時期が10年程ありました。

平成8年に障害者プラン～ノーマライゼーション7ヵ年プランが策定され、「精神障害者入所授産施設ベル・エポック」の開設を検討しました。しかし当時は個人病院で、補助金を受け施設を運営することは不可能だったので、まずは法人化することから着手しました。色々な関係者の方に助けいただき、平成8年8月8日に医療法人として運営することになりました。翌年の4月1日には「精神障害者入所授産施設ベル・エポック」の運営を開始しました。過密なスケジュールの中、職員とタッグを組んで駆け抜けた印象があります。利用するメンバーさんにとっては住まいと仕事のどちらも提供することが一番の社会復帰だと考え、全国では7番目という数少ない入所授産施設を開設しました。

当時は204床で病院を運営していましたが、オーバーベッドに至ることもあり、住まいの提供も充実しようとグループホーム（平成11年）や福祉ホームB型（平成14年）も開設しました。平成16年に「精神保健医療福祉の改革ビジョン」*1で退院促進が政府の方針として打ち出されましたが、当院においては「受け入れ条件が整えば」という課題については大きな混乱がなかったように思います。

*1「精神保健医療福祉の改革ビジョン」では平成16年9月に厚生労働省保健医療福祉対策本部が、受け入れ条件が整えば退院可能な入院患者の72,000人を10年間で退院させるとの方針を提示した。

働きたいを形にするまで

冬の気候が厳しい八戸でも、年間を通してメンバーさんに仕事をしてもらいたいと思い、ベル・エポックではクリーニング作業を取り入れようと考えました。本格的なクリーニングの機械を補助金で購入し、病院の寝具やスタッフの制服の洗濯を作業として取り組んでもらいました。時期を同じくして非定型精神薬が登場し、患者さんの症状の安定が顕著になり、入院期間は短縮し社会参加の可能性が一気に拡大しました。仕事出来る喜び、再入院せず自分らしい暮らしが出来る喜びを感じるメンバーさんの表情を見て、一人一人の可能性をあきらめずにやってきて良かったと感じました。

時が経ち、ベル・エポックに入所しているメンバーさんから「いつまでここで訓練してれば良いのか」と尋ねられ、更なる活躍の場を検討することになりました。どんな働き

方が良いのか仕事のあり方が良いのか試行錯誤した時期もありました。松平名誉院長が当たり前前に生活できる給料を渡したいという方針でしたので、月額目標工賃を5万円として「カフェレストラン茶居花」が平成14年8月に開店しました。大変な時期もありましたが、今では就労継続支援B型でも目標に近い工賃を支払うことが出来ております。就労継続支援A型では7名の方を雇用しています。

「カフェレストラン茶居花」は、開設当初の営業は21時まででした。店内にたくさんパンを並べてお客様のお迎えをしたいとパン職人とメンバーさんは夕方までパンを焼いていました。しかし東日本大震災を機に営業時間を短縮し、支援物資としてすぐ食べられるものが良いと思いパンを避難所へしばらくの間送っていました。物資の供給が安定してきたころ、ちょうど小中野ショッピングセンター出店の話があり、「カフェレストラン茶居花」小中野店を平成23年11月にオープンすることになりました。お弁当やお惣菜なども充実させ、今では地元のお客様にも好評で、メンバーさんも働ける場所が増えいきいきとしています。

平成17年11月に開設した「ドッグガーデン茶居花」には現在保有犬が9頭います。接客というレストランの就労は自信がないというメンバーさんもいましたので、どうにか仕事に携われないかと考えていた時に、ワンちゃんのお世話を仕事にするのはどうかと考えました。入院病棟やデイケアにおいてアニマルセラピーを実施し、働くメンバーさんは仕事をしながらワンちゃんに癒され、ワンちゃんを通じてメンバーさん同士コミュニケーション能力を身に付け、自信を持ったメンバーさんの中には、一般就労の夢を叶えた方もいます。

未来への取り組み

当院は平成23年12月に八戸ではじめて社会医療法人として認可され、病院と福祉事業所を一体的に安定して運営できるようになりました。福祉の姿を思い浮かべる時、自分たちの理想を持っておくことがとても重要です。国の政策が変わっても右往左往しないようどんな物事についても未来形で考えています。メンバーさんに仕事を「与える」のではなく、「作り出す」、「考えだす」、そして福祉だからといって甘えがあってはならないと思っています。商品はすべて本物志向でなければ大勢の人のニーズに応えられないと思っています。

3つの事業所では毎日80名近くのメンバーさんが働いています。何十年も入院していたメンバーさんが仕事をしている姿を見ると、とても嬉しいですし、元気をもらっています。非定型薬が「精神科の夜明け」をもたらしたと思っています。これから先の未来は私たちの取り組みでメンバーさんの可能性を引き出せると信じ、これからも夢を大きくもって進んでいきたいと思えます。

(事務長 前田 優子)



ベル・エポックとカフェレストラン茶居花

看護部長就任のご挨拶

私は平成10年に松平病院に入職しましたが、その時すでにベル・エポックがありました。その後さらにグループホームやカフェレストラン茶居花ができ、当時はそれが精神科病院のスタンダードなあり方なのかなと思っていました。年月が経ち精神科病院を知るにつれ、当院はかなり早い時期から障害のある人が社会復帰し自立できる取り組みをしてきた草分け的存在であることが分かりました。病院の新築や、法人内での地域移行に関わる体制の強化など、さらに環境が整ってきております。

法人内が充実してきたところで看護部長に就任した私の使命は、先人たちの思いを受け継ぎ、衰退することなく次の世代に伝えていくことだと思います。松平病院の理念である「人間の尊厳と人間愛に基づく医療を目指す」に沿った看護を展開し、患者さんが自分らしい人生を送れるよう援助していきたいと考えております。障害のある方の自立には、地域の方のお力添えがとても重要です。法人内職員、地域の方々が力を合わせて前進していけるよう、積極的に看護部から外に向けた活動もしていきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

(看護部長 高橋千恵子)

デイケアだより

「あぐりの里」見学

3月27日(月) ベル・エポック就労移行支援、B型就労支援事業所の利用者と一緒に「あぐりの里おいらせ」の見学に行った利用者の一言感想を紹介します。

現在ウォーミングアッププログラムに取り組み、就労移行支援利用を目指している2人です。

おいらせ町にある「あぐりの里」へ行き観光農園内を案内して頂き、説明を受けました。

そばや小麦を作り加工販売したり、温泉水でハウス内を温めて熱帯の植物・果実を育てていました。

産直・パン・そば工房、いちご狩り等があり、年間42万人も来園するそうで、集客力が凄いと思いました。

障がいがある人も、農園レストラン、パン、そば工房、いちごハウス、熱帯果樹園等で、少ない日数や短時間でも就労支援A型、B型として働いているそうです。

働いて社会と繋がる機会が得られる所が良い所だと思いました。

農園レストランは、一日平均200人だそうです。水耕栽培した野菜をレストランで提供していて、食べたことのない野菜があったり、料理もデザートもどれを食べても美味しかったです。

施設見学が出来て今後の参考にもなり参加して良かったと思いました。有難うございました。

(I・F 女性)

おいらせ町のあぐりの里施設見学へ行きました。あぐりの里では、いちご農園やパン工房、レストラン等を行っており、その中で利用者さんの能力や希望に応じた働き方が出来るのが魅力的だと感じました。とても有意義な見学になりました。有難うございました。

(A・M 女性)

健康増進プログラム「キックベース」

3月24(金) 健康増進プログラムのリフレッシュ会で、メンバーからの希望を受けて、「キックベース」を行いました。初めての試みでしたが、ルールなど皆で話し合いながら試合し、楽しいリフレッシュ会となりました。

リフレッシュ会でキックベースをやるのは初めてでしたが、皆とやるのはとても楽しく、良い思い出になりました。また機会があればやりたいです。どうもありがとうございました。(Y・H 男性)
スタッフから：スポーツ万能のYさん、“継続は力なり”です。



皆で集中してボールをキックして、自分はキャプテンをして皆をまとめることが出来て良かったです。またやってみたいです。今度は勝ちたいです。

(T・O 男性)

スタッフから：就労の合間のリフレッシュは明日へ繋がります。



健康増進担当スタッフから

リフレッシュ会は、メンバーの意見を取り入れ、毎月、色々なレクやスポーツを行っています。増進プログラムの参加目的はメンバー1人1人異なりますが、特にリフレッシュ会では、チーム全体で楽しく体を動かし気分転換を図る機会となり、回数を重ねるごとに、チーム力が高まっています。スタッフも、関わりの中で学びがあり、沢山の刺激を受けています。



お花見散歩

4月20日(木) 蟹沢水道公園まで景色を楽しみながら散歩しました。道端や民家の庭に梅や水仙も咲いており、春の陽気に清々しい気分でした。



❁ 蟹沢水道公園の満開の桜は初めて見ました。とっても綺麗でした。運動にもなり、目の保養にもなりました。来年も行きたいと思います。(M・O 女性)

❁ 蟹沢水道公園を散歩しました。桜がとっても綺麗でした。山も小鳥も畑も自然に触れて良かった。公園まではすぐでした。(S・I 女性)

❁ 蟹沢水道公園のお花見散策では五部咲きもあり、まだつぼみの桜の木もありましたが花の命は短いが、楽しかったです。(T・W 男性)



❁ 桜が美しくとても良かった。散歩がとても身体に良かった。(T・N 女性)

❁ 桜の美しさも大変良かったのですが、バックに映る松の木もいい味を出していました。初めての散歩も気持ちよく実行出来たので良かったです。また参加してみたいです。(T・I 男性)

「いい季節だなあ」
「きれいだ。」



春祭り練習 (三味線教室)

5月20(土)に予定している春祭りに向けて、3月から演奏曲の練習に取り組んでいます。演奏曲は「さくらさくら、朧月夜、とらじよ、津軽甚句、嘉瀬、六段」です。三味線、太鼓、唄、鐘のパート毎に集まって練習しています。参加メンバーから本番に向けての意気込みを聞いてみました。

♪ 掛け声を間違えないようにするのに苦労しましたが、練習でも本番でも成功することを願ってここまで来ました。なので頑張りたいと思います。(N・M 女性)



♪ 去年の春祭りでは太鼓を叩きましたが、今年は鐘の練習をしています。やはり一年も経っていると感覚を忘れてしまい、勘を取り戻すのが大変でした。何とか祭り当日までに前のように出来る様に練習をしたいと思います。(S・S 男性)

♪ 三味線を習い始めて一年が経ちますが、スタッフの皆さん、利用者の皆さんと楽しい時間を過ごしてこられた事への感謝の思いを胸にステージに立てたらと思います。(T・S 女性)



♪ 去年の春祭りの時もギリギリまで太鼓を練習しました。今年も頑張って良い音を出して頑張ります。(M・O 女性)

三味線スタッフから

春祭りで発表をすると決まってから、作業やプログラムと併行し、皆が一生懸命練習を行っています。前回の発表から1年が経ち、披露する曲も増えました。メンバーさんそれぞれが本番で楽しんで演奏できるようサポートしながら、一緒に舞台を盛り上げたいと思います。

多機能型サービス事業所「ベル・エポック」では、就労支援事業として就労継続支援B型と就労移行支援のサービスを実施しています。就労継続支援B型は主に事業所内で作業に取り組んでもらうことで働くための集中力や体力を身につけたり、無理なく働くことで生活の幅を広げるための支援をしています。一方で、就労移行支援では、作業参加だけではなくビジネスマナー等の働くために必要なスキルを身につけるためのプログラムを提供しています。

今回は、就労移行支援利用を通して、一般の企業に就労をしたAさん（男性）に感想を聞いてみました。



就労移行支援のプログラムの様子

就労移行支援を利用するきっかけ

就労移行支援を利用するきっかけは、主治医の先生から勧められたことでした。当時は入院をしていますが、退院をしたら働きたいと考えていました。診察で主治医の先生に相談をしたときに、ベル・エポックでの就労移行支援サービスを利用して就労の準備を進めていくことの提案がありました。就労支援サービスのことは、それまでは聞いたことがなかったので新鮮な感じがしました。働くために必要ないろいろなことを学ぶことができると思ったので、就労移行支援を利用して就

前向きに「働くこと」について考えてみませんか？

— Aさんの体験談 —

労を目指していくことに決めました。



職場で働くAさん

就労移行支援利用から就労まで

就労移行支援のプログラムを通して、ビジネスマナーの座学で学んだ挨拶等の礼儀をきちんと行うことは今の就労で一番役に立っていることだと思います。また、接客作業体験で金額等を間違えない責任感を身につけることができたと思います。

楽しかったプログラムはスポーツプログラムです。他の利用者の人と一緒にバスケット等をした時間が楽しかったです。

就労移行支援を半年位利用をした頃に、一般企業での職場実習の話がありました。職場実習は慣れない所での作業で失敗をしたこともあったけど就労移行支援のスタッフの人が付き添ってくれたりアドバイスをしてくれました。この職場実習を通して、先を見て行動をすることの大切さを学びました。

その後も職場実習を重ねて行って、今の職場での実習を経て就職することになりました。

これから就労を目指す方への Aさんからのメッセージ

仕事では失敗をすることもあります。失敗から立ち直ることの大切さを就労移行支援の利用を通して気づきました。何事も前向きに捉えることが大切だと思います。

合同展示販売会に参加しました

2月25日にラピアで三八地区福祉施設就労開発センター合同即売会が開催されました。八戸市内の障がい者就労支援事業所が集まり、就労訓練作業等で作成した商品の販売を通して地域交流を目的としているもので年に4回開催されています。ベル・エポック、カフェレストラン茶居花、ドッグガーデン茶居花も就労継続支援B型の作業で作ったクッキーやパン類を販売しました。当日は大変多くの地域の方々が会場に来て下さって、販売の作業をしたメンバーさんもたくさんの方と触れ合うことができました。今回の販売を通して、就労支援事業所への地域の方々の理解が深まってほしいと思います。



販売会では茶居花のシュークリームが大好評でした

花見遠足に行きました

4月20日にベル・エポックの利用者とドッグガーデン茶居花の利用者で遠足に行きました。三沢市にある「障害者就労トライアルセンターボイス」さんで就労継続支援B型の作業を見学させて頂きました。また、Cafe42さんで就労継続支援A型の作業の見学後に皆でランチをいただきました。普段、他の事業所の作業内容を見る機会があまりないメンバーさんは、作業のことについていろいろと質問していました。メンバーさんにとっても就労について改めて考える良い機会になったのではないかと思います。

事業所見学の後には下田公園に寄って、みんなで一緒に桜を眺めました。桜がきれいに咲いていて、春の訪れを感じることができました。普段は動きやすい格好ばかりしているメンバーもこの日はオシャレをして遠足を楽しみました。



Cafe42 店内で事業所説明をしていただきました

春の花がきれいに咲きそろいました



花壇のチューリップもきれいに咲いています

ドッグガーデン茶居花の園芸作業では、お越しいただいたお客様に季節の花々を楽しんでいただくために季節ごとにプランターや花壇の花の植え替えを行っています。

今年も春が訪れて暖くなり、柔らかな日差しを浴びて春の花がきれいに咲きそろいました。これからも皆さんに季節の花を楽しんでいただくことができるように、園芸作業メンバー・スタッフ一同で頑張っていきたいと思います。

茶居花市開催のお知らせ



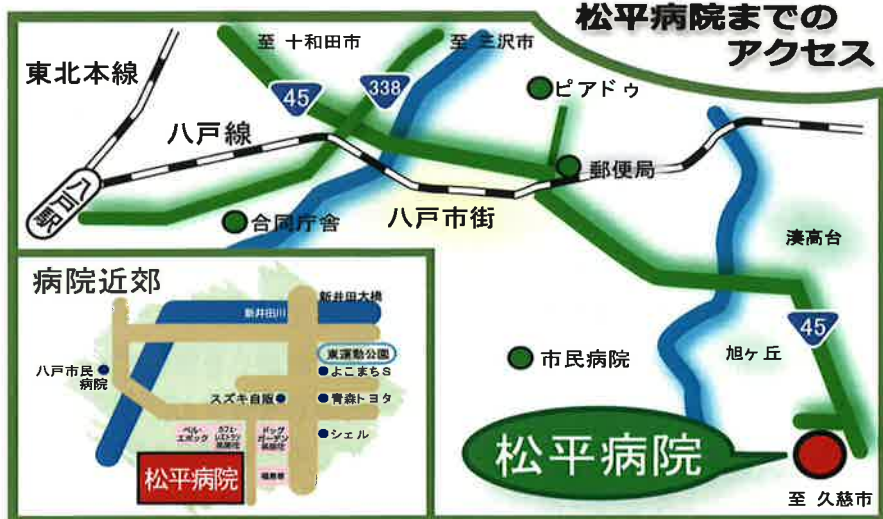
今年も茶居花市を6月・8月・10月の第3日曜日に病院前広場にて開催する予定です。6月18日(日)は、桜田マコトさんのコンサートや北里大学の三源色さんの「よさこい踊り」等のイベントを予定しております。



8月20日(日)にはカフェレストラン茶居花のオープン15周年の記念イベントを一緒に行います。当日、カフェレストラン茶居花でお買い上げいただいた方から先着順で食パン1斤をプレゼントいたします。

新しく「工房 茶居花」がオープンします

ドッグガーデン茶居花の隣に新しく「工房 茶居花」というお店がオープンします。「工房 茶居花」では、コーヒーショップのほか、事業所で育てた野菜や作業で作った食料加工品、手作りの小物を販売する予定です。8月20日にオープンする予定ですので、是非一度お越しください。



八戸駅から八戸市営バス旭ヶ丘営業所まで(旭ヶ丘営業所行き)約35分
(料金300円)

八戸市営バス旭ヶ丘営業所から出口平バス停まで(工業大学行き)約5分
(料金150円)

〒031-0813

青森県八戸市大字新井田字出口平17
社会医療法人 松平病院

電話 0178-25-3217

発行元 社会医療法人 松平病院

発行責任者 北條 敬

編集責任者 横田 浩

編集委員 前田 優子

高橋 千恵子

西館 陽子

田中 泰子

高橋 加奈子

佐藤 美佐緒

桜田 はつみ

駒井 純基

長谷部 幸恵

アンダンテ 第49号

発行日 平成29年5月15日